

駒澤大学名誉教授

佐々木宏幹

# 「若い」について

2

# 仏教企画通信

発行日 | 平成31年1月1日

# 54号

発行所 | 有限会社 仏教企画  
〒252-0113  
神奈川県相模原市緑区谷ヶ原2-9-5-5  
Tel.042-703-8641  
Fax.042-783-0989

発行人 | 有限会社 仏教企画代表 藤木隆宣  
Email | fujiki@water.ocn.ne.jp

## 「年(歳)は取るものではない」

昭和十年代(一九三〇〜)、東北地方の田舎では、「とつしより(年寄)は尊敬されていた。男年寄は「おじんつあん」、女年寄は「おぼんつあん」と呼ばれていた。

本紙の「人生五十年時代」において私は、現代の日本は「孤独社会」であると述べた。それは、この国が「高齢社会」になり年寄はこれまでになく増えたが、夫婦共に元気でいるという訳ではなく、どちらかに先立たれ、「独り者」が多くなってきたからである。この独り者たちの面倒を誰が看るのが将来の深刻な問題になってきたのである。

私が幼少の頃、つまり昭和十年代には、独り者は少なかった。核家族がなかった訳ではなかったが、概して大家族であり、田舎では祖父母、父母、息子夫婦、孫夫婦が一家に同居しているのが普通であった。

多くは農家であり、田畑を耕作する農業は人手を必要とするから、大家族は好都合な

家族形態であった。

しかし大家族にあつても年寄になると身が衰え、徐々に農仕事から手を引き、やがて「日向ぼっこ」の人にならざるをえない。誰しも避けられない年寄の身なのだが、働いている家族にたいしては少なからず遠慮があつたに違いない。その気持ちの表現が「とつしよりにはなるもんではないなあ」「年寄にはなるものではないなあ」であった。

「おじんつあん」と「おぼんつあん」は若い世代の尊敬の対象であつたが、決して甘えつばなしではなく、そこはかとなく気を遣う世代でもあつたのである。

「居候」三杯目にはそつと「だし」という諺があるが、居候(他人の家に寄食する人)でなくとも、仕事ができなくなつた年寄たちには、この諺の気持ちに通じるものが十分あつたに違いない。

幼少の頃、まだ食糧事情が悪化していない時期であつたが、六十代の男性が自分の息子の嫁に食物(飯)を減らされたと告白するのを耳にして驚いたことを憶えている。二杯目か三杯目の御飯が欲しいと義理の娘に飯茶碗を出したら、嫁はほんのわずかだけ茶碗に入れたという話である。その人はそのことを「嫁につもられた」と表現した。

国語辞典の「積る」は「同質のものが、その上に重なり加わること」とあるから、右の例とは反対の意味になる。方言であつたのか、その人の独自の言葉であつたのか、今

となつては分からない。その頃の年寄は尊敬と差別両者の対象であつたのだろう。

## 「おらおらでひとりいぐも」

若竹千佐子著『おらおらでひとりいぐも』(河出書房新社刊)は第一五八回芥川賞受賞作であり、二〇一七年一月三〇日初版発行だが、翌一八年三月二三日には六六刷発行となり、私が入手したときは、四五万部突破とあつた。表紙の帯には「六三歳の新人、新たな「若い」を生きるための感動作」とあつた。

私が今書いている「若い」について」の参考になるはずと思つて早速購入した。著者の若竹さんは岩手県遠野市の生まれで六三歳、岩手大学教育学部卒である。私の祖父母も遠野市近くの生まれであり、親しみ深い。

それに小説全体にわたつて多用されている方言は、私が幼少の頃よく使つた言葉であり実に懐かしい。「東北弁」である。

書き出しはこうだ。「あいやあ、おらの頭このごろ、なんぼがおがしくなつてきたんでねべが、どうすつぺえ、この先ひとり、何如すべがあ、何如にもかじよにもしかたながつぺえ、てしたごどでねでば、なにぐれ、だいにじよぶだ、おめには、おらが最後まで一緒だから、あいやあ、そういうおめは誰なのよ

決まつてべだら。おらだば、おめだ。おめだば、おらだ」。私が育つた気仙沼の方言は、若竹さんのと少し違つているように思う。「おがしく」は「おがすぐ」であり、「しかたながつぺえ」は「すかたながつぺえ」、「てしたごど」は「てあすたごど」(傍点筆者)であつた。

とにかく本書全体に方言が散在して、それが本書の特色の一つになつている観がある。

本書の主人公は七十四歳になる桃子さんである。桃子さんは若くして岩手から上京し、東京オリソニックの好景気に沸くこの街で蕎麦屋の店員になり、夢中で働いた。

そしてこの店によく来る同郷の男性周造と知り合い、結婚するにいたつた。生活はおだやかに推移し、子供を産み育てた。それから一五年、周造は寝込むでもなく心筋梗塞であつた。桃子さんが住んでいるとこ

ろは、新興住宅地である。都市近郊の丘陵を切り開いた場所であり、彼女の家はその中腹にある。

家の前の急坂を下ればかつてはスパーがあつた。若い頃の桃子さんは自転車の前と後ろに子供を乗せ坂を下りて買い物をし、ハンドルの両脇に買い物ぶらさげてまた一息に駆け上がるという芸当もやつてのけた。

その頃の桃子さんは自分の老いを想像したことがあつたろうか。ましてや、独り老いるなどということ一度たりとも考えたことがあつただろうか。

桃子さんの回想は続く。自分が一番輝いていたのはいつだったのだろうか。子供の時分、周造と出会つた頃、小さな子供二人を抱えて懸命に生きていた頃、立ちどころに桃子さんに笑みがこぼれる。どれもこれも懐かしくて温かい。珠玉の日々。

でも違う、かすかに首を振





要なものかなと。佐々木先生のようにそれをやってこられた、また現にやっている教授陣もいらっしやるわけですね。私も、その考え方がもう少し全体に広がって行けばいいですね。

**藤木** 思いますね。なるほどね。

**長谷部** 大学の果たす役割はいろいろありますけれども、指導者をつくるということも大事になってきます。特に仏教界を担う指導者、それを駒澤大学が禅の世界を中心に輩出していくという役割を、使命を担っているわけですから**藤木** そう思いますね。三月の十七、十八日だったと思いますけれども、フランドレイジングの研修会が駒澤大学でありましたね。一泊二日です。私は一日だけ参加したのですが、あのときに千人をはるかに越える、いろんな人たちが全国から来られて。いろいろなテーマが実にたくさんありました。ああいうところに仏教者が本当は入って行って、今、社会はこういうことを求めているんだというのを皮膚感覚で捉えていく必要があります。

**長谷部** 来年もフランドレイジング協会の集まりを駒澤でやることになろうと思います。私もそこに出て挨拶してほしいなという話も出ていますので、もし機会を頂けたら、そのようなこともお話ししたいなと思います。

**藤木** ありがとうございます。ぜひお願いいたします。

**藤木** ほぼ二か月半ですか、それは長いですね。

**佐々木** それですと調査をしましてね。よかったことは、シンガポールもクアラ Lumpur も、調査地では英語が通じたことです。あの地域は中国出身の人々が多いわけですね。調査をしてみると面白いことに、仏教が中心の国々であるけれども、庶民が行くのは、いわゆるシャーマ

**藤木** 先生は、東南アジアの諸国を広く調査されていますね。たとえばお釈迦様がお生まれになったインドはいかがでしたか。

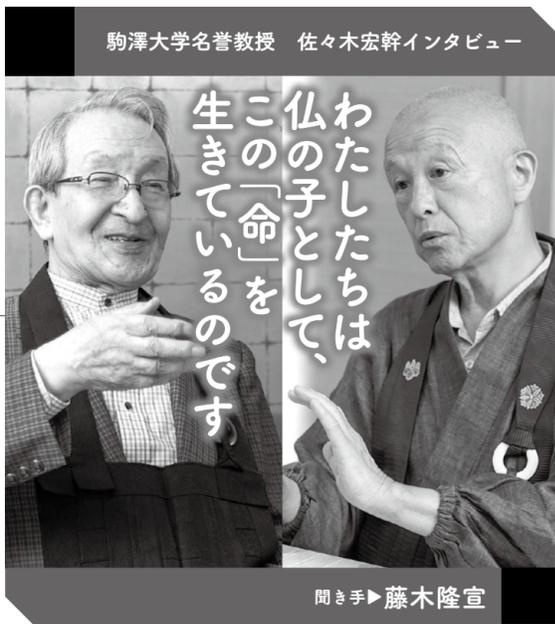
**佐々木** インドにも調査で入りました。ところがどうもインドの調査というのはうまくいかなかった。お釈迦様が生まれ亡くなられた国ですから行ってはみました。しかしあの暑さでは、熱波で正直もう死ぬかと思つたこともありま

**民衆の内に息づく  
靈魂と向き合うこと  
の大切さ**

**藤木** 先生は、東南アジアの諸国を広く調査されていますね。たとえばお釈迦様がお生まれになったインドはいかがでしたか。

**佐々木** インドにも調査で入りました。ところがどうもインドの調査というのはうまくいかなかった。お釈迦様が生まれ亡くなられた国ですから行ってはみました。しかしあの暑さでは、熱波で正直もう死ぬかと思つたこともありま

われるものが真剣に問われていることです。もし仏教系大学の仏教の先生に、霊だ魂だなんて言ったら、「そんなものはない。仏教は空、無我、無自性だ」と言下に否定されるでしょう。けれども、日本の檀信徒にすれば、空とか無我というのを分かってお寺に来る人は滅多にいないはず



駒澤大学名誉教授 佐々木宏幹インタビュー

聞き手▶藤木隆宣

で、お坊さん自身は坐禅でいいかなといけない。道元禪師の伝統ですから。しかし、檀信徒となるとどうでしょう。私が育った気仙沼の寺でも坐禅会をやっているけれども、檀信徒約千のうち六、七人来てお寺にきて、坐禅を組んで現成公案の提唱を聞くという人は、いわゆるインテリです。だから、曹洞宗の力というのはどこにあるかという

ものを丸二年やって、立派な本になっていきますが、そこでもお寺に来る理由はと聞きま

と、お坊さんは坐禅でなければいけない、建前上も本音上も。しかし役割としては、やっぱり霊、魂ですよ。これはどの宗教でも、キリスト教でもイスラムでも、現地に

この位置が難しい対象が仏教であつたし、今もそうです。それから悩んだ部分もござい

に、流される文化じゃないんですよ。これは本当にそういうものを全部われわれの側が包括していつてしまふ、そこに焦点化していつてしまふ

と、お坊さんは坐禅でなければいけない、建前上も本音上も。しかし役割としては、やっぱり霊、魂ですよ。これはどの宗教でも、キリスト教でもイスラムでも、現地に

人類学をやつた私なんかでもない。つこない。その氏が、「佐々木先生、お釈迦様は精進料理ばかりというの、あれは違うという新しい研究がインドのほうで出てきましたね。頂いた物は何でも召し上がったというので。お釈迦様は魚でも肉でも食べておられたようですよ」と。だからあの時代で八十まで長命でいられたというのが正木先生の説です。

ひと昔前の学問では、釈尊像というものが非常に理念化されて超人的に説かれてきました。新しい釈尊像を拝見すると、お釈迦様も檀信徒から頂戴した物は、肉でも魚でも召し上がったということ

と、お坊さんは坐禅でなければいけない、建前上も本音上も。しかし役割としては、やっぱり霊、魂ですよ。これはどの宗教でも、キリスト教でもイスラムでも、現地に

**死者が仏になる  
ことの意味**

日本仏教はそのところからうまいですね。「衆生仏戒を受ければ、即ち諸仏の位に入る。位大覚に同じうし己る」と。お葬式ときに仏戒を受けると、死者は仏様と同じ位に就くのです。「真に是れ諸仏の子なり」と。この辺のところをインド人が聞いた

すか、もう少し高いかな。藤木 せいぜい二、三%と聞いています。

**佐々木** あれだけ教会をつつたり、一生懸命やっておられも受ける日本人でも、宗教までそうだとすることはならない。やはり、日本人は宗教を選んで受け入れているということがあるわけですね。それは何かというと、例えば、さきほどの恐山の霊や魂の問題です。これは日本の宗教の根っこだと、ぼくは思っています。根源にあるのはやっぱり先祖を祀り、亡き人を弔うということです。お葬式のとき、戒を受け、そして戒の名前が戒名であつて、戒というものが最初が殺生戒、次が不倫盗戒です。殺すな、盗むなという、人間が弱いとやつてしまふことをやっちゃならんというところから始まります。これは、死んでしまったのだから、一人の人間の何もかもが終わつて、なくなつてということではなく、出家を果たして新たないのちが始まることを意味しています。そして、先祖崇拜を通じて、また霊や魂の問題に入つてい

と、お坊さんは坐禅でなければいけない、建前上も本音上も。しかし役割としては、やっぱり霊、魂ですよ。これはどの宗教でも、キリスト教でもイスラムでも、現地に

宗教も含めて  
日本文化論を  
考え直す必要性

**正木** 二年ほど前に、東大の科学史の先生たちを中心メンバーとして、科学隣接領域研究会という研究会を、日本財団の支援を受けて、日本科学協会の中に立ち上げました。その中でいろいろな話が出てきます。中でも驚くのは、科学者の不正事件がかなり多いという事実です。非常に多くの数の不正が横行していて、世界中で大問題になっていて、驚くべきことに、一般人に比べても科学者の検挙率のほうが高いのです。

では、どうしたらその不正を防げるかということ、世界各地で様々な対策が試みられました。アメリカで顕著な効果を挙げたのは、科学者に聖書を読ませたことだったのです。明らかに不正率が下がったのです。私たち日本人は単純素朴に、欧米人であれば誰でも聖書を読むだろうと思つていますが、科学研究の先端にいる人たちは、どうやら聖書を読んだことがないらしい。本當の基礎の基礎のところ、人としてやって良いことと悪いことの区別が全然ついていない。そこで、きちんと教えてあげると、「ああ、これは良いことで、これは悪いことだ」と意外に簡単に認識して、結果的に不正が下がったということですよ。

**藤木** まず科学の勉強一筋にずっと来ますから、そういう意味ではその周辺を学んでい

ないということですよ。それで、正木 これは意外なくらいのことでしたが、かなり明確に答えが出たみたいですよ。

**長谷部** それはちょっと驚きですね。一神教の世界でもそうなんです。仏教も南の方とこちらでは違いますが、多神教の良さみたいなもの、逆にまた再認識していくというのが必要なんですよ。私たちは、宗教も含めて、日本文化論をしつかりと考える必要があるんじゃないかと思つてます。例えば、日本の仏教と言っても、今われわれは多神教というふうに表示しましたけれども、もつと学問的に突き詰めていくと、日本は本當に多神教なんだろうかと、どこにまで問がいくかもしれません。

実は日本には独特の、何が来てもそこにメルティングしていつてしまふ、そういうふうな文化の核というのがあつて、そういう揺るぎないものがあつて、そこにはキリスト教が来たつて、外来のいろんなものが来たつて、結局は日本的になっていくというのがあります。これはいわゆる人類学等でわれわれが学んできた多神教と同じかなというふうに思うと、どうも違うんじゃないかなという思いがあるんですよ。形態的には多神教というふうに入ると、カテゴリーとしては入るんですけど、実際にその核にあるもの、日本文化の中核にあるもの、このあたりをどうもわかれはしつかりとめぐり出していくと

ち位置が難しい対象が仏教であつたし、今もそうです。それから悩んだ部分もござい

に、流される文化じゃないんですよ。これは本当にそういうものを全部われわれの側が包括していつてしまふ、そこに焦点化していつてしまふ

と、お坊さんは坐禅でなければいけない、建前上も本音上も。しかし役割としては、やっぱり霊、魂ですよ。これはどの宗教でも、キリスト教でもイスラムでも、現地に

ら、そんな簡単にブツダにはなれないよと言うでしょう。向こうでは、輪廻転生で生まれては死んで、また生まれ

ては死んで、業が尽きてやっと仏になれるのに、日本に来ると、仏戒を受ければ諸仏の位に入

り、位は大いなる悟りと同じである。それが通るわけ

です。

藤木 そうです、修証義に説かれてますね。佐々木 だから、「あの人も残念だけれども、仏様になっちゃったね」という、この言葉は

亡き人は仏様になったという言葉が

廃れたときは、お寺も駄目になると私は思っています

。亡き人というのは、死んでも

生きています。魂なんていうと、昔話

にあるような、何かふわふわとその辺を

揺れているような。

藤木 そんなイメージですね、霊魂とい

います。佐々木 そんなふうに誤解される

ものだから、ほくは「死者の人格」と

言い直している。魂とは、霊魂とい

うのは何だといえ、死者の人格なん

です。

藤木 なるほど、死者の人格という

ことは分かりやすいと思います。

佐々木 死者の人格に、お坊さんが戒

を受けて仏の子にしたわけだから、正

確には死者の仏格になる。人格が仏格

になって、仏の位に入ったとい

うことです。この言い方は、ほくがもう少し健康だった

ころ、あちこちの布教師養成所なんかで頼まれて話をした

きに、それはとってもいい表現

ですね、その現場の布教師さん

から言われたことがあります。

藤木 お檀家の方が納得できるようなお話ですからね。お寺さん

ではそういう話をしていかないと。

佐々木 檀信徒に対して、仏教とい

うものを説いていく場合に、ど

ういうふうに接していくかという

ことがありま

すね。これは初めての檀信徒だ

と、誰かが亡くなったときに仏戒

を受ける、それが仏を自覚する

機会です。だからお授戒という

のは大事にな

って、授戒会をするところがお金

がかかる

そう

藤木 そうです、お授戒も大事

なことではありますので、そこ

に何か工夫があるか

と思うんですが。菩提寺の住職

が戒を受けてお葬式をいたします

から、もうちょっと身近な住職

に授戒をして

いただくか。

佐々木 やつぱり両本山の

下をお呼びするとなると、謝

詣がものすごく高いという

話、何人来たか

という寺にも、何人来たか

かな、永平寺の秦慧玉

禅師。それか匠さんの秦慧

昭禅師。それから、総持寺

では伊藤道海

禅師という有名な方です

けれども、戒師としてお越

しただきま

した。

慧玉禅師は私が学生の

当時、

青葉学園女子高校というの

が、世田谷にあって、その校長先生

をなさっておられた。私が駒大

の英文科を終わって、大学院

に入る前ですが、山田霊林先生

から紹介状をいただいて、慧玉

先生を訪ねました。

「佐々木君を英語の先生とし

て使っていてくれないか。その

うち海外に行ってもらう人

だから」ということで、ほく

は一年半、その女子高校で教

鞭を執っていたわけ

です。慧玉先生は本当に地味な

方で、何かペニヤ板を張った

ような校長室におられた

ね、それはもう全然威張った

ところのな

り方でした。秦禅師の、あ

そこの何というお寺だったか、

新宿の近くでした。

藤木 田中寺ですね。

佐々木 そう、そこへも行

ったことがあ

ります。それで、ご馳走にな

ったこと

があります。それで、まだ大

禅師の下になる前のこと

です、猫を可愛がって

おられて、二匹抱っこした

まま

で話をしたりして、本

当に禅師は猫が

好きだなと思

って

ね。お食事でも地味な

もので、何回かご馳走

になりました

けれども。

そのことを示すもの

で、さきほどの死者の

人格、仏格というものが

出てきているわけ

ですね。こういう

ことも、だんだんと

お坊さんが説き

にくくな

っているよう

です。

私は駒澤大学の

仏教学部の

先生方に、もう

少し本音でも

のを説いて頂

きたいと思

っています。

書いてある

からとか、

スツタニ

パータのこ

こにある

からと

いうだけ

では、今

のお檀家

の人たち

にはな

かなかし

つくり

きません。

そこでは

教化者

であり、

仏教の教

をこ

存知な

人々に

教を説

いてい

く、

もちろん

理念も

大事で

すし、死

者の人

格とい

う

ことも

大事

です、

そこは

やはり

両方

を大事

にして

今後

も説

いてい

くべき

だと思

っています

ですから

何でも

かんで

もとい

ますか、

なりふ

り構わ

ず

に思

っています

。

とこう聞いてくる。これに、

答えられないお坊さんがある

と聞きます。

お釈迦様

はお悟り

になって

仏さま

にな

っても、

八十

歳で

命尽

きる

まで

ずつと

修行

をな

さ

さ

つて

お

釈

戒

は

あ

の

世

に

行

つ

て

も

、

そ

れ

で

三

三

六

に

な

る

数

を

加

え

て

七

で

、

そ

の

一

の

聖

なる

数

を

、

お

釈

戒

様

が

お

生

まれ

にな

つ

た

途

端

に

十九日というの意味がある

わけ、そういうふう

に話

してい

けば、

今

の

仏

教

とい

うも

の

弾

力

的

に

説

ける

わ

け

です

。

命

の

大

切

さ

を

も

っ

と

説

く

べ

き

。

藤

木

今

の

時

代

に、

仏

教

は

ど

う

見

ら

れ、

ど

う

考

編集後記

十月十九日、二十日、本誌で「仏遺教経解説」をご執筆中の丸山劫外さんが埼玉県所沢市の武野山吉祥院で晋山結制をされました。

以前に取材で訪れたときから何年かで伽藍などがすっかり整備され、新命和尚の丸山さんらしいすべてに気配り心配りが行き届いた式典でありました。

法要差定も行事規範に則り進められ、新命さんへの問答では首座、弁事、書記やほかの方々の答えが質問者に届くよう丁寧な答えがあり、問答をかけた方にもその他ご随喜のご寺院方、ご参列の檀信徒の方々にもわかりやすい言葉であったのでこのことにも感心しました。

大宇宙の一角のこの吉祥院から仏法の大事さ、ありがたさを私なりに伝えたいと宣言されここに女性の大和尚さんが誕生されたことをうれしく思うと同事にお寺の後継者の危機が言われているこの時代、女性の住職が全国にもっと誕生してもいいのではないだろうか。

お寺の中にはお子様が女性だけのケースも少なくなく、今の時代女性の住職が全国でもっと生まれてもいいのではないかと考えるが読者諸氏のお考えも是非伺いたい。また、青山俊董老師、全国の尼僧さんや丸山さんを慕って門をたたかれる方にも同じ

く住職への門戸が開かれる道筋も必要かと思う。宗門で女性住職講座なるものも開設してはどうだろうか。

住職さんが女性で、例えば夫が先生や、公務員とゆうケースもあっていいのではないかとと思うがどうでしょうか。祝宴会場で同席のご寺院方は一同に丸山さんの大和尚就任を歓迎しておられました。次に駒澤大学の件です。総額五十億円とも言われている苦小牧駒澤大学が他法人に無償で移管されたこの大事件、理事の顛末を調べる「第三者委員会」が設置されないのはいかがな理由によるものであろうか。今では何もなかったような雰囲気である。これは何だろうか。私は不思議でならない。

駒澤大学の理事は十三人で構成されている(わかる範囲では宗門関係からは四人、駒澤大学関係からは六人、他から三人)。監事は三名

で会計監査法人一名、宗門関係から一名、その他一名。大事な案件は理事会を経て、評議員会でも審議される三分二以上あるいは過半数の賛成がなければ案件が可決されないよ



うになっている。

駒大は評議員四〇名になっている。(教職員二〇名、同窓生四名、学生、生徒の保護者または保証人から二名、理事のうちから一〇名、学識経験者四名となっている。現在の理事、監事、評議員の選任方法には大きな問題がある。宗門外、学外から大学

の在り方に深い見識をお持ちの方を選任しなければならぬ。このような方がいないと今のままではすでに乗っ取りが成立してしまう陣容である。見識のある方々は当然宗門で選ぶべきものと考えます。

大学運営に必要な人材を登用しないと、今回苦小牧駒澤大学が他法人に乗っ取られたが、同様の事態がまた起きかねないからだ。早く健全な駒澤大学運営が出来る制度を作らないと第二の乗っ取り事件が起きかねない。

冗談と言いつながら育英館は今度は苦小牧高校をいかがですかと打診しているようだ。乗っ取られて三カ月後のことである。

仏教企画通信

ご支援寺院名 H30.7.28~10.18

Table with 3 columns: 所在地, 寺院名(個人名), 金額. Total amount 8,500.

手まり学園

寄附者御芳名 H30.7.28~10.18

Table with 3 columns: 所在地, 寺院名(個人名), 金額. Total amount 43,000.

仏教企画発行の刊行物

Table listing various Buddhist publications with their authors and prices.

Table titled '曹洞禅グラフ' showing publication dates and pricing for different quantities.

\*『仏教企画通信』を10部以上購読希望の方は一部100円で頒布致します。同封はがきの空欄にその旨をお書きください。(消費税、送料別)

仏教企画 新刊書のご紹介

仏涅槃図の絵解き

高橋秀榮・平川恒太共著 A5版/16ページ(4色8ページ、1色8ページ)

定価(本体150円+税) 100冊以上ご購入の方は、本体価格より1割を引かせていただきます。



手まりパーティーを開催



練習の成果を発表しました

お申込み 〒252-0113 神奈川県相模原市緑区谷ヶ原2-9-5-5 TEL: 042-703-8641 FAX: 042-783-0989 Email: fujiki@water.ocn.ne.jp